



がん治療の3本柱



手術

がんを外科的に切除



薬物療法

抗がん剤などでがんを治療



放射線治療

放射線を照射してがん細胞を破壊

患者様の病状や希望を考慮し、これらの治療法を組み合わせで行われることが多い

放射線治療の特徴

■ 身体への負担が少ない

手術のように体を切らず、薬物療法と異なり局所的にがんを治療する

■ 様々ながんに対応

様々ながんに対応でき、早期がんの場合、放射線治療だけでがんを治癒させることもできる

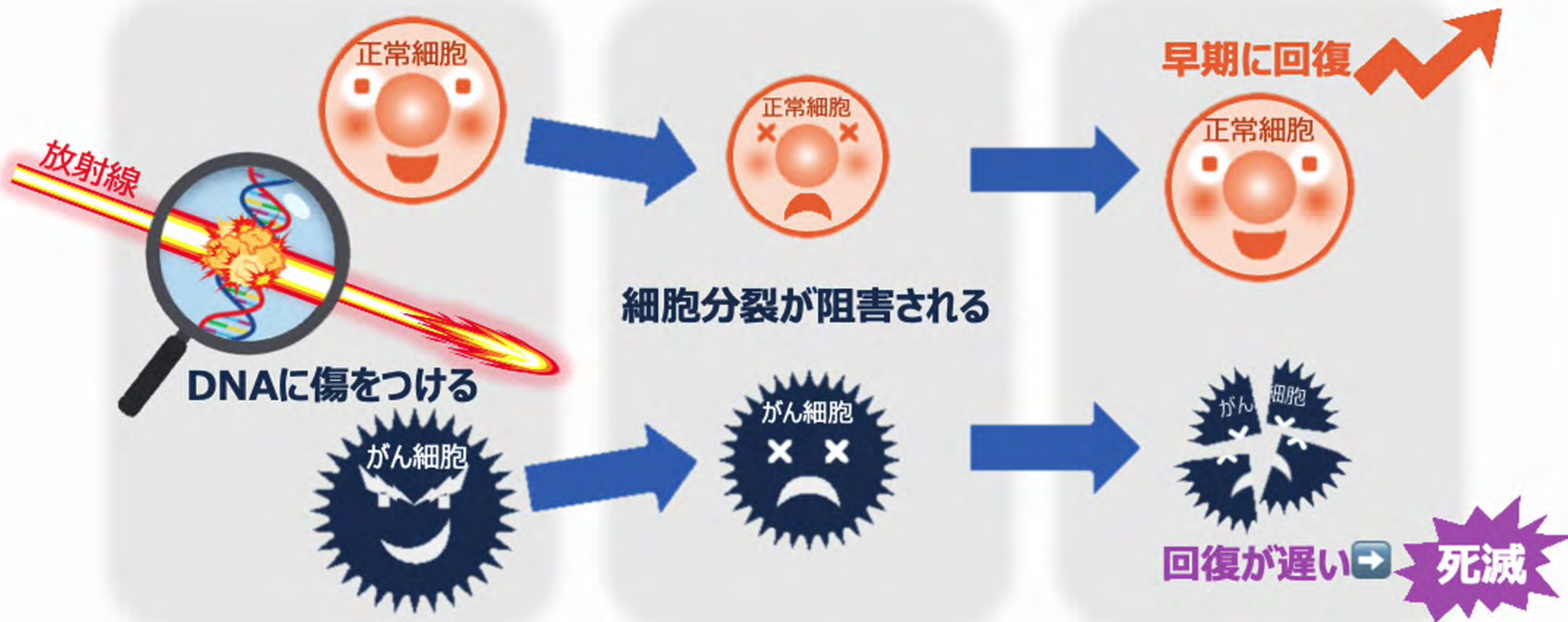
■ 外来通院

生活の質をできるだけ維持しながら治療を進めることができる

■ 治療期間が長い

複数回に分けて照射を行うため、数週間におよぶことが多い

なぜ「がん」に効くのか



当センターの放射線治療装置

外部照射装置

- からだの外から放射線を照射する装置
- 種類はリニアック（直線加速器）
- 高エネルギーのX線や電子線を照射



ELEKTA社製 Synergy

実際の治療開始までの流れ



① 診断・治療方針決定



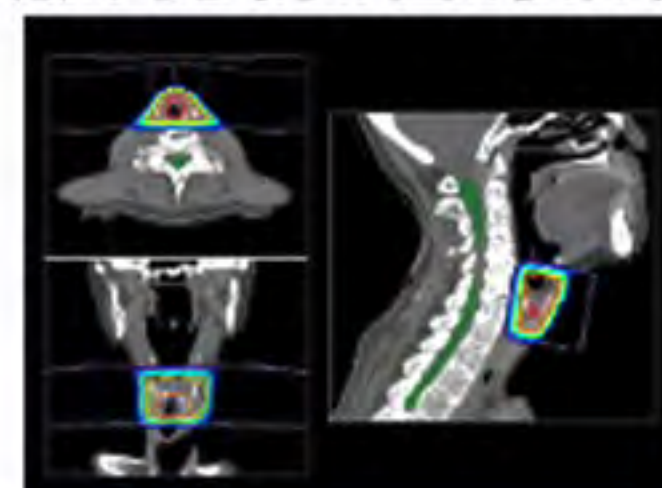
がんの種類と進行度を確認

② 治療計画CT撮影



照射範囲を決定

③ 放射線治療計画

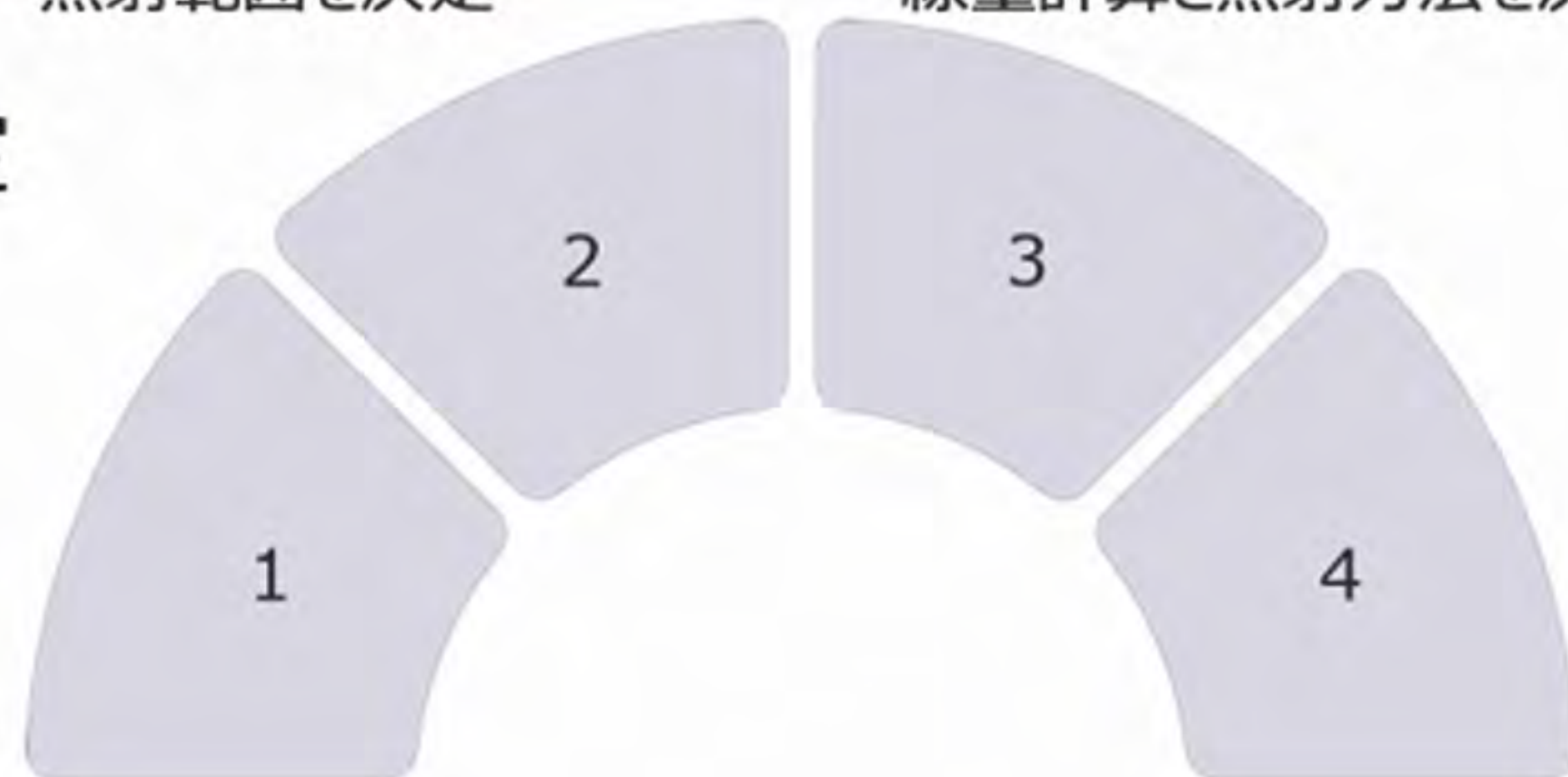


線量計算と照射方法を決定

④ 治療開始



早ければ翌日から開始



外来通院での治療が可能



外来通院

- 多くの放射線治療は外来通院
- 体調の良い方におすすめ



入院が必要な場合

- 薬物療法との同時併用
- 体調がすぐれない
- ご自宅が遠方の場合

治療スケジュールと期間中の生活について



治療期間

- 週5日、1日1回
- 期間は2～7週間



照射時間

- 1回の治療は10～15分
- 実際の照射は2～3分



日常生活

- 普段と変わらない生活
- 睡眠と食事に気をつけましょう

治療中の副作用について

- ☐ 照射した部位に現れるもの
細胞分裂が盛んな正常細胞が傷つくことで起こり、治療開始後2～3週間後に出やすい
例) 頭部：脱毛 / 頸部：皮膚炎・喉の痛み / 乳房：皮膚炎 / 腹部：下痢
- ☐ 放射線宿酔
比較的早い時期に起こる 全身倦怠感、吐き気、食欲不振、頭痛、めまい
- ☐ 個人差がある
副作用の出現時期には個人差があり、症状の出方や程度も異なる

効果判定



画像検査

病巣サイズや広がりの変化



診察所見

身体所見による部位の変化



血液検査

腫瘍マーカーの変化



自覚症状

痛みや症状の改善確認